



論文査読＝研究者の責務？

聞き覚えのないOpen access journal (OAJ) 誌から毎日のように投稿勧誘のメールが届く。「貴方は最近こんないい論文を書いているのだから、次は是非うちに投稿してください。何月何日までに送ってくれば何月号に間に合います」とか「是非Editorとして特集号を企画してください」など。その都度迷惑メールに設定しても、別のアドレスから新しいメールが届く。2006年に創刊されてからあっという間に世界最大の年論文数となった*PLoS ONE*の成功に促されて次々と誕生したOAJ誌には、「由緒正しい」ものも「怪しげな」ものもあり、それを一研究者が判断するのは難しい。しっかりした査読制度のある大手出版社からの「由緒正しいもの」は、トムソン・ロイター社からImpact factor (IF) を付与され、時には新聞の科学欄で大きな研究成果として取り上げられる。しかし中にはIFを付与されながらも「怪しげな」雑誌も少なからずあり、注意が必要である。要は「知らない人について行かない」と子供に言うのと同じで、「知らない雑誌には投稿しない」とすれば済むわけであるが、その雑誌の査読依頼が届くとすると話は別である。サイエンスに携わる研究者であれば、その発展に貢献するため査読依頼は基本的に受けるべきと思っているが、それが「怪しげな」雑誌からであればどうするべきか？

私が取る行動は以下である。まず、UC Colorado Denverの研究者Jeffrey Beall氏が運営するWebサイト (<http://scholarlyoa.com/>) において、「Potential, possible, or probable predatory scholarly open-access publishers」としてリストアップされた出版社からの査読依頼は受けない。次に、トムソン・ロイターのIFを付与されていない新刊以外の雑誌の査読依頼には応じない。しかし、査読依頼を受ける受けないを他者の判断に委ねるのも、依頼を受けないことがよいサイエンスへの貢献と考えるのも、問題があると実は思っている。過去の経験ではそういう論文の多くがMajor revisionにも値しない内容であったので、それに忙しい時間を取られたくないという自身の怠慢なのかもしれない。

先日驚いたのは、石油が沢山取れる中東のとある国の大学出版社からのIF付き雑誌の査読依頼で、理由はその謝礼に250ドルくださるというからである。私の研究内容と重なる部分があり、またそれ以上に興味があり（金目当てではありません！）、依頼を受けて原稿を読んだが、余りにひどい内容であったのでRejectしてしまった。それからしばらく経つが、謝礼の話はほとんど聞かない。かの御期待に沿えなかったのであろうか、あるいは「査読詐欺」であろうか？ さらに最近、「我々のOAJ誌の査読迅速化のため、査読者リストに登録すれば貴方の専門分野にマッチした査読依頼を回すので、それを期限内に査読してくれば1報あたり100ドル払います」というメールが届いた。次々とAcceptすれば、どんどん収入になるのであろうか？ もしかしたら、査読Reviewerとして名前が公開されるのかも知れない。こういう誘いがあったら、皆さんならどうしますか？

(迷える研究者)